

4. 良好な景観形成に係わる特性・課題

4.1 景観形成に係わる特性

<景観面での地域特性>

景観類型の項でも述べたように伊予市には多様な景観が存在するが、各地域の景観から見た地域特性は下記のように整理することができます。

旧伊予市

◆地形的な観点から

- ・行道山、谷上山などの前山を背景とする扇状地台地や平野部の広がりがあり、この結果、下記のような景観となっています。
 - ・平野部からは前山が常に変わることのないふるさとの山々・緑の景観として視野に入ります。
 - ・沖積平野よりやや高い扇状地台地からは、目の前を遮る要素がなければ、郡中の市街地やさらにその先の伊予灘を眺める広がり感のある景観が開けます。
 - ・谷上山、今岡御所など平野部とわずかな比高があれば良好な眺望景観が楽しめる視点場となります。
- ・扇状地は水不足のため、ため池が多く作られ、ため池沿いの樹木、樹林やため池は地域の特徴的な景観要素となっています。
- ・市域の西側に伊予灘が開けていることから、海岸沿いは伊予灘と一体となった夕日景観が見られます。
- ・前山背後に障子山から犬寄峠などの出石山地が控えており、前山との間に森川に沿って小盆地が線状に広がったみどり豊かな農村景観となっています。

◆歴史的な観点から

- ・郡中地区の中心地となっていた湊町、灘町には、昔のたたずまいを偲ばせる民家が残っており、中心市街地活性化の核となる景観要素となっています。
- ・中心市街地周辺では、昔の民家と同様の景観づくりを目的とした新築民家や交流施設「町家」、交番、郵便局などの公共施設が整備されています。
- ・上野本村のように昔の集落景観が残っている場所があります。

◆土地利用・その他の観点から

- ・伊予港周辺は五色姫浜海浜公園、五色浜神社、旧萬安港灯台や彩浜館などがあり、伊予市のシンボル景観の場となっています。

旧中山町

◆地形的な観点から

- ・町域のほとんどが出石山系の山地であり、中山川や栗田川、藤の郷川の流域を除いて平坦地が少ないことから、線状の盆地景観となっています。
- ・川沿いの平坦地から緩斜面の部分は棚田状に耕作地が作られ、漆の梅畑、仁川登や影之浦などに代表される棚田景観が谷沿いに広がっています。

◆歴史的な観点から

- ・泉町には大洲街道の宿場町として栄えた当時の面影がわずかに残った町並みがあるが規模の大きなものではありません。

◆土地利用・その他の観点から

- ・中山川、国道 56 号沿いの谷筋に細長い市街地景観が形成されています。
- ・花の森ホテルや遊栗館、中山保育園、消防署など特徴的な建物が見られます。

旧双海町

◆地形的な観点から

- ・海岸沿いまで山地がせまり、伊予灘に面して 180 度の視界が開けた景観が主です。
- ・伊予灘に面し夕日が美しいことから「夕日」をキーワードとした交流による町の活性化イベントが行われており、「夕日」が町のシンボル景観となっています。
- ・ふたみシーサイド公園は下灘駅のプラットホームとともに夕日を体感できる拠点的な場となっています。(ふたみシーサイド公園は地域の風土と調和した景観の形成に貢献した建造物として特に優秀であると認められたものに贈られる「えひめアメニティ賞」を平成 7 年度に受賞。)

◆歴史的な観点から

- ・上灘町には大洲藩の在町として栄え、明治に入っても晒蟻などで栄えた当時の面影が偲ぶことができる町並みが一部残っています。

◆土地利用・その他の観点から

- ・海に面して山地がせまっているが、海岸段丘上の緩傾斜地や山麓部から中腹にかけての緩傾斜面は棚田や果樹園に利用され、地域の特徴的な景観となっています。
- ・海岸沿いの旧道沿いに民家が線状に細長く位置し、道路が上灘町や豊田などの谷筋の平地に分岐する三差路は交通拠点となり公共施設や商店が位置したことから町の中心地区としての景観を呈しています。また、利便性の良くなった国道沿いに細長く市街

地形成が上記交差点を中心に行われています。

- 様々な団体による花づくり運動が町内各地で行われ、国道 378 号沿いの花の景観（「菜の花畑」や「水仙畑」など）は、人気のスポットとなっており、伊予の花街道とも呼ばれています。（昭和 63 年には「全国花いっぱいコンクール」で国土庁長官賞を受賞、平成 9 年には全国地域づくり交流会議で国土庁長官賞及び実行委員長賞を受賞、美しいまちづくり賞など多くの賞を受賞しています。）
- ふたみシーサイド公園の集客力を生かし県道双海・広田線を軸にグリーンツーリズム計画を展開し、観光イチゴ園などの整備とともに農村景観に留意し、上灘川の護岸整備を石積みとして整備。さらには、翠小学校近くに水車小屋を建設するなど農村らしい景観づくりに取り組んでいます。

4.2 良好な景観形成にあたっての課題

<景観形成にあたっての課題>

良好な景観づくりの検討を行うにあたって、それぞれの地域は下記のような課題を有しています。

旧伊予市

- ・道路沿いの看板など景観を阻害している要因の存在。
- ・伊予市平野部の外縁部を構成する前山はふるさと景観として貴重な緑であるが、有効な保全策が整備されていない。
- ・上記と同様、市街地内に点在する景観木、景観林の保全策がない。
- ・灘町、湊町の中心市街地活性化に昔の建築物を活用した「まるごと博物館構想」を進めているが、建物が老朽化してきているものがある。また、高層建築や陸屋根の建物などが混在している。

旧中山町

- ・中山町の基幹産業は農林業であるが、輸入自由化による農産物価格の低迷、人口の高齢化や出生率の低下、若齢労働力の流出などによる農林業の担い手不足が常態化し、集落においては農地の荒廃や放任といった状況が起きており、地域独自の気候や風土から生まれ育まれた美しく風格ある原風景としての農村景観の維持が危ぶまれている。
(耕作放棄地を抑制し農地の流動化を促進するとともに経営規模を拡大するため農地賃借や受委託の促進、さらには第三セクターによる支援を行っているが追いつかない状況となっている。依然として人口の高齢化、自然減の増大、若者の流出など様々な課題を抱えている。地域生産力の弱体化や担い手不足など地域活力の低下を生み出し、地域社会・地域の生活に根ざした景観の崩壊を招く要素のひとつとなっている。)
- ・町の中心部に様々な施設が整備されているが、利用可能な敷地が少なく、また狭いことから、町全体としての景観づくりの観点が優先されていない。個々の建物は景観的に好ましいものが存在するが、トータル景観としての配慮がない。

旧双海町

- ・中山町と同様、人口減少、高齢化などにより、後継者不足、地域社会の維持などが課題となっており、現在行われている花による美しいまちづくりや夕日をテーマにしたイベント、交流事業の維持も困難になってくると考えられる。
- ・今のところ、豊田港周辺を除いてスプロール的な整備が見られないが、国道沿いの建築物規制に関するルール作りが必要。(海側は公共が開発しない限り、伊予灘への景観確保は行えるが、山側の景観に対する一定の配慮、枠組みが必要と思われる。)